

価値観を変えたハワイのインターンシップ

人文学部 3年 大枝俊貴

この6月9日から同14日まで6日間の日程で開催された米国・ハワイでのインターンシップに参加しました。茨大生12人のほか都内、関西などの大学から計20人の学生が参加、近畿日本ツーリストの社員などの指南を受け、ハワイ最大級のイベント「パンパシフィック・フェスティバル」の管理・運営をお手伝いする形で、いわゆるイベント運営体験型のインターンシップです。

日本名では、「まつりインハワイ」と呼ばれるこのフェスティバルは、今年で37回目。環太平洋圏である日本、韓国、タイ、フィリピンなどから様々な団体が参加、歩行者天国となったメインストリートのカラカウア通りやワイキキビーチの広場にブースを設けて出店し、そこで、民族衣装を着て踊りなどを各国が披露、日本は和太鼓などを


近ツリもこのフェスティバルに関与しており、私たち茨大生は、就職支援センターの募集をみて、この企画・運営の参加を決めました。

インターンシップは、国内編と海外編に分かれていました。訪問直前の5月に、都内の近ツリの事務所に学生が集結し、参加する社員たちから①近ツリとは②仕事とは③ツアープランニングとは④果たすべき役割や注意点などの講義を受けました。



最後に、イベントの台本を渡された時には、驚きました。厚さ5センチ、数100ページに上り、時系列で予定がびっしり書き込まれておりました。参加者の名前ももちろん、役割、分担などがとても細かく記述されておりました。



具体的には、担当ブースの開設と運営、ステージの出演者管理、物品管理などの割り当てです。いずれも出演者に接する仕事ばかりで、これ自分たちが担当するのかなと思うとやや心細くなりました。

搭乗した航空機が成田空港を離陸し、



常夏の保養地、ホノルルに着いたのは、6月9日の午前中。初めての海外旅行だったので、着陸の時に足が震えました。

税関を通過し、空港で待機していたバスに乗り、そのままホテルに直行。荷物を置くと、そのままイベント広場に急行。これから“魔の4日間”が始まりました。

4日間は、正直キツかった。午前7時半に朝礼、それから夜の10時頃までシフトが組まれ、加えてレポートも課されました。ワイキキで知られる海岸に入れたのは滞在中に集合写真を撮影したわずか20分ほど。自由に歩き回りハワイを楽しむ時間が欲しければ、午前3時起きを覚悟しなければ難しいぐらいでした。

仕事は濃密で、神経も頭も体もフル回転させなければ到底追いつけないぐらいでした。もっとも、ハワイの最大級イベントならではの、さまざまな人との出会いがありました。イベント会社の関係者、テレビ局の取材班、タレント事務所の業界人など。特に、私は、テレビ局取材に同行し、ステージに登場しパフォーマンスを披露する役者たちにインタビューしました。



「いかがでしたか」などのありきたりの質問に、撮影していたカメラマンは眉間にしわを寄せ、困惑の表情を浮かべていました。



イベントに参加し、たくさんの涙に出会いました。ステージを無事に終えて満足感からの涙。スタッフの心遣いに対し涙を浮かべて感謝する人。そうした涙が、疲労感に包まれた私の心を癒してくれました。学生らの仕事が、他人の喜びにつながっているということが実感できたか

らです。インタビューの難しさと同時に、仕事をするもののやりがいを感じる事ができたように思います。

幸運なことに、学生が立案したツアープランニングの検証に3日目の11日が充てられていました。この日だけは、仕事から解放されました。私は、一番やりたかったフラダンスに挑戦しました。いざ躍ってみると、一緒に来た学生から「盆



踊り」というありがたくない評価を受けることになってしまいましたがいいい思い出が残りました。

都内での研修の冒頭、近ツリの社員らから「学生ということで、容赦はしない」、「うちは、俗に言うブラックです」との不気味な発言が聞かれました。

ハワイにきてその意味がようやく分かりました。ほとんど休めず、課題の処理に追われました。いわゆる“ブラック”の仕事形態でしたが、イベントを完遂できたことで、十分な満足を得られ、スタッフ同士の連携もうまく取れ、“感動の涙”もありました。

とにかく、たくさんの汗をかきました。汗の量は、涙の量に正比例するようです。「感動してもらうには、必要な時間だと思っから」です。仕事のやりがいとは何かをこれに参加して、実感できました。

振り返ってみると、本当に大変有意義な時間でした。今後の職業選択でわたしの価値観を大きく変えたインターンシップでもありました。なお、参加料金は、約 25 万円（食事代抜き）、それ以外に 10 万円程度かかりました。引率に当たっていただいた井澤耕一先生、就職支援センターのスタッフ、近ツリの社員らに心から厚く御礼を申し上げます。（終）

